

## 2021 年度（令和 3 年度）学部入学式 学長訓示（2021 年 4 月 2 日）

広島市立大学に入学された 4 2 1 名の入学生の皆さん、広島市立大学へのご入学おめでとうございます。広島市立大学を代表して、皆さんの入学を心より歓迎します。また、ご家族の皆さまにも、心よりお喜び申し上げます。広島市立大学の教職員および在学生にとりましても、新入生の皆様を本学に迎え入れることができましたことは大きな喜びとするところです。

広島市立大学は、「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念に掲げて、1994 年（平成 6 年）に広島市が設置した公立大学です。本学は学生数が大学院生を含めて約 2、000 名の中規模大学ですが、国際学部、情報科学部、芸術学部というユニークな学部構成を持つ総合大学であり、約 200 名の専任教員による少人数教育を特色としています。

本日から皆様は本学でいろいろなことを学ぶことになります。本学で皆さんに学んでほしいことは多数ありますが、本日は 3 つのことを皆さんにお話しします。それは、平和について、読書について、そして学問について、です。

まず、平和についてお話しします。広島市は 1945 年 8 月 6 日に原子爆弾の投下により世界最初の被爆都市となりました。原爆の惨禍から立ち直った広島市が設置した公立大学である広島市立大学は、建学の基本理念において「世界平和に貢献する大学」を標ぼうしており、平和に関する教育と研究は本学の使命です。大学院には平和学研究科を設置しており、学部教育から世界レベルの研究まで優れた教育研究を実施しています。

1945 年 8 月 6 日の朝に広島市に起こったことは、決して、歴史上の 1 コマとして忘れてよいものではありません。人類はあのとき、自分たち自身を滅ぼす能力を持つ兵器、すなわち核兵器を自らの手にしたのであり、核兵器は今もその威力を数万倍にも増して、人類の手元にあります。1945 年 8 月 6 日の

広島、そして同年 8 月 9 日の長崎で起こったことを知ることは、人間の尊厳と生存に直接かかわることです。

ですから、核時代に生きるすべての人間が平和について、そして原爆について学ぶことは責務です。皆さんは、広島市が設置した公立大学で学ぶことを選択した学生として、平和について様々なことを学び、平和を自らの言葉で表現できる人間になってください。本学はそのための様々なカリキュラムを用意しています。

次に、読書についてです。21 世紀の社会は、AI が発達し、多くの仕事がコンピュータで実現できるようになると予想されています。そうした AI 社会を生き抜くためには、物事を深く考える力、大量にあふれる情報の中から重要で本質的なものを見抜く力、他者とコミュニケーションを取りながら協働で仕事をしていく力がますます重要になってきます。こうした力を身に付ける最善にして、ほとんど唯一の方法は本を読むことです。

現代のインターネット社会では、SNS を中心に情報が氾濫していますが、本当に価値のある情報を見つけることも、あるいは優れた思想を見出すことも実は困難です。もちろん、SNS を否定しているわけではありません。SNS には SNS の役割があります。しかしながら、例えば 140 文字のツイッターで表現できる思想にはおのずから限りがあるのは自明なことです。まとまった分量の文書を丁寧に読むことで、人は深い知識と考える力を身に付けることができます。

本を読むことに慣れていない皆さんも多いと思います。そのような学生のために、本学では 10 年以上前から「いちだい知のトライアスロン」という教育プログラムを全学で進めています。これは、大学に入ったら、本を読もう、美術館に行こう、映画を見よう、という教育プログラムです。教員との日常的なふれあいの中で、自然に読書、美術鑑賞、あるいは映画に親しむようになることを目指したプログラムです。本日は細かいことは説明しませんが、読書の向こ

うに広がる豊かな世界をぜひ在学中に体験して下さい。

最後に、学問についてです。皆さんは大学に何のために入学したのでしょうか。もちろん、大学入学の目的は人それぞれだと思います。将来の自分のために知識や技能を身に付けたい、という人もいるでしょうし、自分の未来はまだ不確定なので、自分の未来を探すために入学した、という人もいるでしょう。大学に入学した動機は何であれ、大学は「学問の場」であるということを、きょうの入学式にあたって、改めてしっかり認識することをお勧めします。

人間が太古の昔から営々と築き上げてきた知の体系が「学問」です。そして、過去から連綿と受け継がれてきた知の体系を正しく継承し、維持し、発展させたうえで、次世代に伝えることが大学の最も重要な機能です。自然も、社会も、人間も、根本から理解するためには学問しかありません。大学卒業後に皆さんの武器となるのは、学問を基礎とした体系だった知識と技能、およびそうした知識や技能に裏打ちされた物事の考え方、捉え方です。ですから、大学に入学した以上、学問に親しみ、学問を身に付けることの大切さを理解してもらえれば、それだけでも大学に入学した価値はありますし、学問を現実の問題に応用する力を身に付けることができれば鬼に金棒です。

とはいえ、高校までの勉強を思い出して、また、いろいろと覚えさせられるか、面倒だな、と思う人もいるかもしれません。大学での勉強なんて、社会に出てからは役に立たないだろう、なんて思っている人もいるかもしれません。そこで、そういう人のために、きょうは内田百閒（うちだひゃっけん）の言葉を贈ります。内田百閒は文豪夏目漱石の門下生の小説家であり、随筆家としても知られています。

「知らないという事と忘れたという事は違う。忘れるには学問をしなければならぬ。忘れた後に本当の学問の効果が残る。」

つまり、百間先生は、忘れることを恐れて、あるいは、学んだ知識が役立つか役立たないか、ということだけを考えて学問をしてはいけない、学問をした人は、たとえ学んだ知識はすべて忘れたとしても、学問をしなかった人より優れている、と言っています。私もそう思います。是非、大学にいる間に、学問に親しんで下さい。その効果が一生続くことは私も保証します。

最後になりますが、皆さんはこれまでの1年間、コロナ禍のため、大変、制約の多い生活を送ってこられたと思います。本学も、昨年度は入学式を中止せざるをえず、また、多くの授業をオンライン授業で実施するなど、大きな影響がありました。本日の入学式についても、例年であれば広島市長、広島市議会議長をはじめ、ご来賓の方々のご臨席を賜り、式を挙行するところでしたが、コロナ禍のためにご来賓や皆さんのご家族の参列はなく、式の規模も縮小せざるを得なくなったのは大変残念に思います。コロナ禍は当面、続きそうですが、大学はウイルス感染防止に最大限の注意を払いながら、教育研究環境の保全に全力で努めます。皆さんには、感染防止にご協力いただくことはあると思いますが、どうか安心して本学での勉学に励んで下さい。

これからの大学生活において、皆さんは多くのことを体験することになるでしょう。例えば、友人との新しい出会いもそうですし、これまで経験しなかったスポーツを始めることもあるでしょう。あるいは長期休暇を利用して、見知らぬ土地を旅行するのもよいでしょう。大学はそうした皆さんの活動を心から応援します。

皆さんの広島市立大学での日々が実り多いものになることを祈念しまして、結びとします。本日は、ご入学、誠におめでとうございます。

2021年（令和3年）4月2日  
公立大学法人広島市立大学 理事長・学長 若林 真一